

防災 特集

被害を最小限に抑える 事前防災

激甚化する台風や集中豪雨、いつ起きるかわからない地震など、私たちは常に災害リスクと隣り合わせです。被害を減らすためには、日頃からの備えと適切な判断が重要です。本特集では、新たな気象情報の見方や家庭でできる備え「自助」と、お互いに協力し助け合う「共助」の大切さについて紹介します。

新たな防災気象情報を ご存じですか？

令和8年5月29日から、気象情報の伝え方が大きく変わりました。これまでは「大雨警報」や「土砂災害警戒情報」など名称がバラバラでわかりにくいという声がありました。新たな防災気象情報では「警戒レベル」の数字が名前につくようになり、直感的に危険度がわかるようになっています。

今回の変更では、レベル4で「危険警報」が新設されました。これまでであった土砂災害警戒情報などは、「レベル4 ○○危険警報」に統一されており、この情報が出たら、市は危険な場所にいる人を安全な場所に全員避難させるため、避難指示を発令します。

また、従来の大雨警報なども、名前に「レベル3」がつけます。この情報が出たら、高齢者や避難に時間がかかる方は、この段階で避難を開始するよう市は高齢者等避難を発令します。

さらに「レベル5」特別警報では、すでに安全な避難ができる状態ではなく、命が危険な状況にあるときに発表されます。ただちに安全を確保するための行動を行ってください。

このように、レベルの数字が大きくなるほど命の危険が迫っているということですので、警報等の発表があったら、ためらわず、できるだけ早く安全な場所に避難しましょう。

▼新たな防災気象情報

警戒レベル	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流	高潮 海水面上昇や波の打上げによる浸水	住民がとるべき行動
5	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保
警戒レベル4までに危険な場所からかならず避難！					
4	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から 全員避難
3	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認(避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど)
1	早期注意情報				災害への心構えを高める



令和7年8月に発生した台風第12号に伴う豪雨により水位が上昇した花渡川

「自分だけは大丈夫」を捨てて「自助」の準備を

避難所へ行くことだけが避難ではありません。親戚・友人・知人の家などに身を寄せることも避難に入ります。自宅が安全な場所であり、建物が大丈夫であれば自宅避難するのが理想です(在宅避難)。

自宅内・外で避難する場合には、必要な物を事前に準備しておくことが重要です。準備する物の確認は、首相官邸のホームページに掲載されている「防災チェックリスト」を活用しましょう。このリストは、避難の際に持ち出す「非常用持ち出し袋」と、在宅避難を支える「備蓄品」が整理されています。「こども」のため

の備え、「女性の備え」、「高齢者のための備え」も掲載されているので、家庭の状況に合わせた準備が可能です。

○ローリングストック

普段食べているレトルト食品や水を少し多めに買い置きし、使った分を新しく補充することで、常に一定量の備蓄を家庭に保つことができる方法です。

被災時でも、食べ慣れた味や使い慣れたもので過ごせるため、ストレスを軽減できます。

また、食料だけでなくトイレットペーパーやラップなどの日用品も常に多めにストックしておくのもおすすです。

非常食専用の特殊な食品を買い

揃える必要がなく、普段の買い物で気軽に実践できます。

○非常用持ち出し袋

避難の際は、水や食料のほか、歯みがきセットも必ず準備しましょう。口の中が不潔にな

ると、さまざまな病気を引き起こします。断水時でも使用できる水歯みがきもあれば便利です。

また、災害時でもスマートフォンを充電できるように、モバイルバッテリーが必須です。非常時に備えて乾電池式や大容量のものを用意しておくとう安心です。



【首相官邸】
災害の備えチェックリスト

— 地域を守る要 — 自主防災組織

大規模災害が発生した直後、警察や消防などの「公助」は、道路の寸断や同時多発的な通報により、すぐにすべての現場に駆けつけられないのが現実です。

阪神・淡路大震災において、倒壊家屋などから救出された人の約8割は、自力(自助)または家族や隣人の助け(共助)によるものでした。

消防や自衛隊などの公的機関によって救出されたのは、わずか1割程度にすぎないというデータがあります。このようなデータは「隣近所とのつながり」がいかに強力な救命手段であるかを物語っています。

本市では、多くの集落で自主防災組織が結成されています。訓練を実施し参加することは、近所の顔見知りを増やし、いざというときに助け合う関係性を作ることができます。ぜひ、積極的に関わってみてください。



自主防災訓練の様子(木場公民館自主防災対策協議会)

自主防災組織への支援

災害が起きたときに、自分たちの手で避難・救助や炊き出しなどを行い、互いに助け合うことのできる、実動する自主防災組織となるよう、本市では、自主防災組織に対する支援を行っています。

- <主な支援内容>
- ・防災出前講座
 - ・自主防災組織育成補助金
 - ・自主防災組織災害補償
 - ・防災アドバイザーの派遣

大規模災害に備える

本市は、昔から「台風銀座」と呼ばれ、多くの台風による被害を受けてきました。また、地震や津波への備えも欠かせません。いつ起こるかわからない災害に備え、普段から防災意識を高めておきましょう。

台風・大雨 (浸水・土砂災害)

○ハザードマップの確認

市ホームページにおいて公開している「まくらざき情報マップ」では、ハザードマップを確認することが出来ます。

自分の住んでいる場所や職場などが安全な場所にあるのか、最寄りの避難所はどこにあるのかなど確認し、特に、土砂災害警戒区域(レッドゾーン・イエローゾーン)や浸水想定区域内にお住まいの方は、避難する場所への避難経路を複数確保しておきましょう。



ハザードマップ (まくらざき情報マップ内)

○自宅周辺の点検

台風接近に伴い、強風で飛ばされやすい鉢植えやゴミ箱などは早めに固定・収納を行います。

○家の中の備えも

大雨等で浸水が想定される場合は、濡れたら困るものは2階か、高い位置に置きましょう。また、土砂災害が想定される場所では家の近くに崖がある場合は、崖側から離れた部屋を使用しましょう。

○揺れたらすぐ、高い場所へ

本市に想定されている地震の最大震度は震度5強で、最大津波高は3・79mとなっています。また、地震発生後の津波到達時間は、最も早いもので55分後と想定されています。津波警報等が発表されたら、できるだけ早く高台へ避難しましょう。

地震の揺れに対する備えとして、家具の固定はとて有効です。避難を妨げるのは「倒れた家具」です。「L」字金具やつっぱり棒などで固定をしておきましょう。

問合せ 総務課危機管理対策係 TEL 761086